



撮 影：鈴木ヨシアキ

「消えたい」「生きる意味が分からない」と苦悩する現代の青少年たち。そんな彼らと、戦時中の窮屈な時代においても、みずみずしい感性で多くの詩を残し、最期まで自分らしく生きることを諦めなかった詩人・竹内浩三を会わせたい…。そんな思いで2018年に誕生しました。

浩三の出身地である伊勢を舞台に、浩三と、明るく逞しい伊勢の人々との出会いの中で、少しずつ「生きること」と向き合い始める宮斗の心の変化を描いています。

いくつかの出会いと別れの中で成長していく主人公の姿を通して「生きるとは何か」をストレートに問いかける感動の舞台です。

生きることが楽しかった君と
僕は出逢えた…

大西弘記 II 作 関根信一 II 演出

征つたけれど

きみはいくさこ

感想



題名だけを聞いて最初は、戦争のことについてだと思っていましたが、戦争の話や命の話といった大きなテーマというより、私たちの身近な問題や人と人との関わりなどを改めて学ぶことができたと感じます。初めて生きるということを実際に考えた一日でした。

(高校生)

竹内浩三さんの詩や浩三、おばあちゃんや伊勢の人達と過ごす内に宮斗が少しずつ変わっていき、自分の思いを伝えたり自分の意志で行動できるようになっていって、最後には真正面から人とぶつかっていけていたところがすごく心に響きました。「人との縁」や「生きるということ」について自分でも考えて自分なりの答えをこれからの人生の中で探していきたいと思いました。

(中学生)



美術＝乗峯雅寛 方言指導＝脇田康弘 製作＝白木匡子
照明＝河崎 浩 (劇団俳優座) 佐藤尚子
音響効果＝石井 隆 舞台監督＝新庄広樹
衣裳＝宮岡増枝 演出助手＝清原達之



あらすじ

家にも学校にも居場所を見つけれない高校生の宮斗。ある日、彼の前に風変わりな一人の青年が現れ、彼に話しかける。「なんしとん？」彼の名は竹内浩三。

夏休み、宮斗はおばあちゃんが暮らす父の故郷伊勢へ向かう。久しぶりに再会するおばあちゃん、伊勢で出会った温かい家族、そして浩三との出会いの中で、宮斗の心は少しずつほぐれ、変わっていく…。

イラストは竹内浩三の描いたものです。(藤原書店 提供)



秋田雨彦・土方与志記念

青年劇場

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-20 周川ビル4F TEL03 (3352) 6990
E-mail info@seinengekijo.co.jp https://gakko-kouen.seinengekijo.co.jp